

秋川渓谷 「新型コロナ対策『見える化』プロジェクト」 (秋川渓谷新型コロナ対策連絡協議会)

1. 背景

東京都心から西へ僅か 1 時間ほどの場所に、花と緑に囲まれ、清流の美しい「秋川渓谷」がある。あきる野市から檜原村へと流れる、全長約 20 km の多摩川の支流を秋川渓谷と呼ぶ。四季折々の景色は訪れる人々を魅了し、トレッキングやキャンプ、バーベキュー等の「山遊び」、溪流釣り等の「川遊び」、温泉など四季を通して楽しめる人気のスポットだ。

この閑静な里山も新型コロナウイルスの影響を受け、地元住民や観光施設、商業施設は不安な日々を送っていた。令和 2 年 4 月 7 日に緊急事態宣言が発出された以降も市外から少なくない観光客が訪れ、それに伴う感染拡大に不安を抱いていた。普段であれば大切な観光客が、「不安の種」となってしまっていたのだ。住民が安心感を持つことができ、事業者は円滑に営業再開でき、そして観光客は安心して秋川渓谷を訪れる事ができる、これらを叶える方法は無いものか・・・商店会長や市議会議員、地元事業主らが発起人となり、任意の団体「秋川渓谷新型コロナ対策連絡協議会」（代表：南元宏五日市商和会会長）を発足させた背景にはこうした問題意識があった。協議会は、迅速な情報公開が得策ではないかと考え、緊急事態宣言が解除されて約 1 か月後の同年 6 月 2 日、地域の住民、事業者、観光客が「事業所毎に講じられる感染症対策を一覧できる」ウェブサイトを開設し、「新型コロナ対策『見える化』プロジェクト」（以下、「プロジェクト」）を開始した。



サイト URL : <http://www.akigawakeikoku.tokyo/>

【「新型コロナ対策「見える化」プロジェクト」】秋川渓谷新型コロナ対策連絡協議会

「地域住民」「地元観光事業者」「観光客」の三者が情報共有しながら、ともに安心・安全な秋川渓谷の再構築に取り組めるよう、秋川渓谷の各事業者の新型コロナウイルス拡散防止の取り組みの情報収集をし、それを一覧でまとめたウェブサイトを作る事によって、広く「見える化」に取り組んでいる。

○ウェブサイトの概要

- ・掲載料・・・無料
- ・登録方法・・・ウェブサイト上の専用フォームからアンケートに回答
- ・内容・・・「観光施設」、「宿泊施設」、「飲食店」、「交通事業者」「商業・サービスその他店舗」の業種別に、「アルコール手指消毒剤の設置」「お客様が触れる箇所の消毒」「店内の換気」「ソーシャルディスタンス接客」「スタッフの健康チェック」など、各施設の取り組みと、施設からのメッセージを掲載。

○呼びかけ人（順不同・敬称略）

南元宏（五日市商和会会長）、天野正昭（あきる野市議会議員）、中嶋博幸（あきる野市議会議員）、山口和彦（横川観光㈱）、松村兼房（(有)松村商店）、国廣純子（五日市タウンマネージャー）、神野賢二（東京裏山ベース）

○後援

あきる野市、あきる野市観光協会、五日市商和会、西東京バス㈱、東日本旅客鉄道㈱、八王子支社、檜原村、檜原村観光協会

開設時点で33件だった掲載件数は、令和2年9月15日現在で81件まで増加し、現在も情報の更新が続けられている。都内において、個別事業者による情報発信に留まらず、観光エリアの新型コロナウイルス対策を「一気見」できるウェブサイトは希少である。

本稿では、この取り組みを紹介することに留まらず、その情報発信に至るプロセスを掘り下げることで、地域住民、地元観光業者、観光客の三者の関係がどのように変化し、観光まちづくりにどのような影響があったのかを探ることとする。

2. 地域主導の見える化の試み

同年9月、秋川渓谷でのアウトドア活動の拠点である東京裏山ベースを運営する神野賢二さんにお話を伺った。

緊急事態宣言の延長が決まった同年5月4日、神野さんは、市職員、タウンマネージャーとZOOMで話し合いの場を持った。緊急事態宣言が解除されるのか、再度延長されるのか、方向性は見えなかったが、いずれにしても、地域としての対策が何も出ていない、早急に準備をしておかなければという焦りがあった。続いて商店会や観光協会のキーパーソン、あきる野市議会議員など信頼できる仲間の方々と話し合いの機会を持つ中で、新型コロナウイルスの影響は地域全体に関わり、長期化も懸念されるため、個々では対応できない問題だという認識で一致した。

初めは市がガイドラインを作成する行政主導も検討したが、地域主導での取り組みが現実的な選択肢となった。緊急事態宣言中に迎えたゴールデンウィーク期間、市外から訪れた観光客が陰でバーベキューを行い、マスクもせずゴミを散らかして帰る様子に地元住民は悩まされていた。市は、クレーム対応で多忙を極めていた。市の協力は不可欠だが、地元住民の不安を解消するためには、地域の住民、事業者、観光客が情報共有を出来る場づくりが求められた。

地元住民の不安が解消されなければ観光客を呼ぶ事が出来ず、事業も動かない。住民の不安は、新型コロナの対策がしっかりできていない中で、観光客が増えていってしまうことへの懸念であり、そして、地域として対策に取り組む姿が伝わっていないことが、その不安を大きくしているのではないかと考えられた。そうであれば、「見える化」によって不安を取り除く事が優先となる。「最初は住民、誘客は後」だ。このような共通認識を持った仲間達が一体となって各方面に働きかけ、協議会を立ち上げ、ウェブサイト開設にこぎつけた。

資金は全くかかっていないという。寄付にも頼っていない。神野さんご夫妻が協議会の事務局を運営し、ウェブサイトの構築・維持・更新等、全て行っている。ウェブサイトによくある外注はなく、自社のサーバーを使用している。掲載事業者の募集やサイトの周知は、五日市タウンマネージャーがFacebookを通じて行ってくれた。

プロジェクトへの協力を得ていくために神野さんが作った企画書を元に、掲載事業者の募集やサイトの周知を地元観光協会の協力も得ながら進めていった。また五日市タウンマネージャーの協力で協議会のFacebookページを立ち上げ、継続的な情報発信が行える体制も整えた。地元住民への周知のため、各自治会長にも企画書を郵送することにしたが、その郵送費用は呼びかけ人の一人が助けてくれた。

このようなスタイルになったのは、どこから後援を取って資金繰りをしてからでは間に合わなかったから、という。外部からの資金を得ておらず、収益が出る事業でもないため、会計管理なども必要がなく、情報共有、情報発信に集中することができた。

結果的には、市、観光協会、商店会、交通事業者等からの後援も得られた。費用負担を求

めず、誰にもデメリットが出ない形で、社会的な意義について熱意を伝えた事、そして、無理なく出来る事への協力を求める、それが功を奏した。現時点では、秋川渓谷沿いのバーベキュー場や瀬音の湯といった主要な観光施設や西東京バス、JR 東日本といった交通事業者を巻き込み、カバーするエリアも、あきる野市だけでなく、檜原村も含むまでに広がった。

「プロジェクト」を始めて約2か月。国のGoToトラベル事業から東京都を目的とする旅行と都民の旅行が除外された事もあり、都民にとって近場の観光地である秋川渓谷には、8月以降、休日を中心に観光客が急増し、道路渋滞するなどの問題も起こっている（令和2年10月現在）。しかし、バーベキュー場の周辺の河原等、観光客が集中しやすいエリアであっても、ゴールデンウィークに見られたような、地元住民からの感情的な反発は弱くなり、ヒステリックなクレームを耳にする事は無くなったという。このような「成果」はどのようなにもたらされたのだろうか。

これを、すべて「プロジェクト」で説明するのは難しい。状況を聞いたところでは、サイトがTVで紹介されたり、Google 検索の上位に表示されたりするなど、情報共有が進んでいる一方で、「マスクをせず、ごみを片付けず・・・」という観光客がいなくなったわけではないという。

時間が経過する中、緊急事態宣言は解除され、あきる野市や東京都などによる新型コロナ対策も進められた。こうした点が住民の気持ちの変化にプラスに働いていることは確かだろう。

しかし、これだけでも説明は難しい。そこで、筆者は、この「見える化」プロジェクトが、人々の「意識」に与えた影響から、「成果」を次のように考える。

多くの人々が地域のために動き、取り組みが広がっていく過程で、地域の新型コロナ対策の取り組みが「見える化」され、地元住民は安心感を得た。また、一見、立場が違ってくるように見える観光事業者と住民も、仕事が終われば住民であり、このプロジェクトの動きも、住民同士の口コミを通じて浸透していった。

このように、情報発信のためにサイトづくりを進める中で、地域の人々は情報を「共有」するだけでなく、同じ方向を向いて問題に立ち向かっていくという「姿勢」を育み、「共有」したのではないかと。そして、このことは新型コロナを乗り越えた後も、「観光まちづくり」を進めるための大きな財産となるだろう。

3. 秋川渓谷のこれからと、贈る言葉

「この取り組みによる効果は無限大です。根回しやフォローを積み重ねてきたため、事業が遅滞する事もありましたが、安心感が得られ、今後の見通しも立てる事が出来ました」と神野さん。さらに、「すでに基本的な目的は達成できています。このスタイルをキープしていく事が大切です。状況は日々変化し、対策の傾向を変える必要が出てくるでしょう。とは言っても、事業として拡大させていく予定はありません。状況に応じて柔軟にアップデート

していきますが、目立たなくて良いです。秋川渓谷で何か知りたいと思った時、情報が一度で見られるサイト、『情報インフラ』として常にこのサイトがある事が重要なのです。」と話す。

そして、他の地域へ向けて、神野さんからのアドバイス。「地域に合った取り組みが良いです。その場所の環境に合った人選とやり方が必要で、他の地域を模倣する必要はありません。新型コロナウイルス対策は、やらなければいけない事だという義務感ではなく、地域全体が直面している問題にチームで取り組む事で一体感が作られます。ガイドラインに頼ると認識の違いが出てきます。メリットになる事だけを情報収集すれば、対立は起きません。そして、出来るだけ多く情報発信をする事が大切です。残念ながら当分の間、私達は新型コロナウイルスと共存して生きていく事になります。ゼロには戻らないので、気負わず、出来る事をやっていく事で安心感が得られ、メリットにもなる事でしょう」。

<おわりに>

協議会会長であり、五日市商和会会長の南さんは地元で生まれ育った方。子供の頃から秋川で遊び、バーベキューはどの家庭でも日常。こんな最高の場所は無いそうです。「人も自然も豊か。都心から訪れやすい場所にもかかわらず、観光地化が進んでいなくて素朴」「特に街と山の境目が魅力的」と仰います。

一方協議会事務局であり、東京裏山ワンダーランド代表の神野さんは四国出身。秋川渓谷の魅力に取りつかれ、この地に移住したそうです。

課題もあります。観光地としての秋川渓谷には、知られていないスポットがまだまだあり、観光ルートが確立していないのが現状です。東京観光財団では、秋川渓谷流域の交通手段やその利用状況の調査を実施し、調査結果を踏まえ、シェアサイクルを活用した周遊観光の有効性を検証しています。また、「新たなツーリズム開発支援事業モデルプロジェクト」として秋川渓谷を含む多摩地域や島しょ地域での新しい取り組みを支援・紹介しています。

今回のような地域主導の取り組みを通して、秋川渓谷をさらに魅力ある場所に高めていけたら最高です。

秋川渓谷を訪れて、まず何をしましょう。地域一帯がテーマパーク。新型コロナウイルス対策も十分に実施され、自転車やアウトドアグッズのレンタルなども充実してきて、いろいろな遊びが気軽にできる秋川渓谷。今まで知らなかった楽しみ方やツアーを教えてもらったりして、手軽に自然の中でリフレッシュしたいですね。



- 【取材協力先】 秋川渓谷 新型コロナウイルス対策連絡協議会
会長 南 元宏様（五日市商和会会長）
事務局 神野 賢二様（東京裏山ワンダーランド代表）
- 【取材日時】 令和2年9月3日（金）、9月8日（火）
- 【関連リンク】 秋川渓谷新型コロナ対策観光・商業等事業者一覧
<http://www.akigawakeikoku.tokyo/>
東京裏山ワンダーランド
<https://ura-yama.com/>

（地域振興部事業課 長崎）